

WEB 講義と対面講義

情報教育センター所長 福永文美夫

新型コロナウイルスの感染拡大によって、思いもかけず 2020 年 4 月から WEB 講義を強いられた。本ジャーナルの読者の先生方もたいへんなご苦勞をされたことと思う。後期の講義は一部対面で再開され、学生や教員の負担も少し軽減されることとなった。

久留米大学では、6 月に御井キャンパスの学生に対して WEB 講義についてのアンケートを実施した。そのアンケート結果を 5 段階評価に換算してみると、講義の満足度は、3.12 と満足度合いは「大変良い」から「良くない」までバラツキがあった。また、理解度は 2.95 であり、理解できないという割合がやや高かった。WEB 講義の内容としては、高ポイントの順に列挙すると、「科目によって差がはげしい」(3.96)、「教員からのレスポンスがほしい」(3.75)、「課題が多すぎる」(3.62)、「通常授業の方が絶対に良い」(3.58)、「授業の中で友だちと意見交換をしたい」(3.33)、「WEB 授業はやる気がおきない」(3.16)、「WEB は孤独でつらい」(2.63)などであった。

学生から「課題が多すぎる」という話はよく聞いていたが、それよりも「教員からのレスポンスがほしい」という要望が高いポイントになった。これは当然の結果であろう。というのも、久留米大学の WEB 講義はオンデマンド型であるため、学生が PDF ファイル等の講義資料にアクセスして確認テストやレポートを提出するものであり、一部の教員による動画収録・配信の講義は別にして、大部分の講義は教員からの資料の解説がほとんどないからである。また、「理解できない」という学生が半数以上いるのは当然のことと思う。特に、「科目によって差がはげしい」という意見が最も高いポイントになったのは、教員による WEB 講義作成スキルの差が出ているものであろう。

新型コロナウイルスの終息後、WEB 講義と対面講義のハイブリッド型の講義形態は、今後さらに浸透すると考えられる。WEB 講義を利用した反転学習やグループワークなどのアクティブラーニングは、演習だけでなく大人数の講義でも積極的に推進されることが予想される。それは同時に、教員がこれまで長年実践してきた講義方法を根本的に見直さなければならないことを意味する。

近い将来、情報教育センターで講義されている教員だけでなく、他の教室で講義されている教員もすべて WEB 講義作成スキルや反転学習、グループワークのスキルが求められるであろう。もちろん、学生にとっても漫然と教室の後ろに座って聞いて帰り、ペーパーテストの定期試験をパスすれば良かった時代はとっくに過ぎ去ろうとしている。このような大学教育の変革期が訪れようとしていることを実感した 1 年であった。